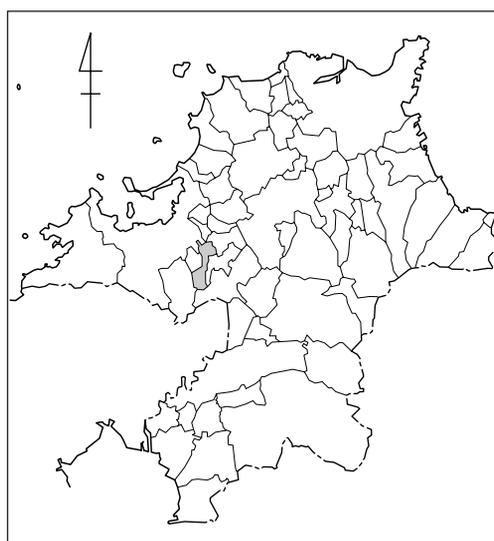


# ほう まつ 宝 松 遺 跡 1

—第1～3次調査—

大野城市文化財調査報告書 第173集



2019

大野城市教育委員会



## 序

福岡県大野城市は、福岡平野南部に位置し、西暦665年に築かれた日本最古の朝鮮式山城「大野城」にその名を由来する、古い歴史と豊かな自然に恵まれた緑豊かな街です。市域には、大野城跡のほか、水城・牛頸須恵器窯跡の国指定史跡をはじめ、多くの歴史遺産があります。

今回ご報告する宝松遺跡は、古墳時代の集落の状況や中世～近世の「山田村」の様相が明らかとなり、新たな本市の歴史を語るができる内容になっています。

本書が学術研究はもとより広く一般に活用され、地域の歴史や文化財への理解と認識を深める一助となることを願っています。

最後になりますが、発掘調査ならびに報告書作成にあたり多大なるご理解・協力いただきました地権者ならびに地域住民の皆様に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成31年3月29日

大野城市教育委員会  
教育長 吉富 修

## 例 言

1. 本書は、大野城市山田4丁目479-4（第1次調査）、山田4丁目394-7（第2次調査）、筒井1丁目462-7（第3次調査）に所在する宝松遺跡に関わる埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本調査は、共同住宅及び個人住宅建設に伴う事前調査として実施されたもので、第1次・2次調査の発掘調査費用は事業者と市が折半、第3次調査と報告書作成費用は、市が負担した。
3. 本調査は大野城市教育委員会の第1次調査は林潤也、第2次調査は徳本洋一、第3次調査は柴田剛が実施し、整理報告は柴田が担当した。
4. 本調査は、第1次調査は平成15年5月7日～平成15年6月9日、第2次調査は平成18年8月8日～平成18年9月15日、第3次調査は平成29年11月1日～平成29年11月10日まで行った。
5. 整理調査・報告書作成は平成30年6月1日～平成31年3月29日まで、大野城市心のふるさと館（3階）で実施した。
6. 本書に使用する遺構実測図は平島義孝、林、徳本、柴田が行い、遺物実測は小嶋のり子、柴田が作成し、製図は渡部美香、デジタルトレースは吉田薫、山元瞭平、柴田が作成した。
7. 本書で使用する写真は現場の遺構写真を各担当者が撮影し、遺物写真を写測エンジニアリング株式会社に委託した。
8. 本書の挿図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土座標Ⅱ系（世界測地系）を示す。
9. 本書に掲載した遺跡分布図は、国土交通省国土地理院発行の25,000分の1地形図『福岡南部』・『太宰府』を使用した。
10. 本書の掲載遺物・実測図・写真は、大野城市教育委員会が保管・管理している。
11. 本書に使用する土色名『新版標準土色帖』農林水産省技術会議事務局監修を使用した。
12. 本書における遺構の分類記号は、SD：溝 SK：土坑 SP：柱穴ないし杭等による小穴 SX：不明遺構
13. 本書に使用した分類は、基本的に以下のものによっている。  
陶磁器 『大宰府条坊跡XV』太宰府市の文化財第49集 太宰府市教育委員会2000年
14. 本書は林、徳本の協力のもと執筆と編集は柴田が行った。

# 本文目次

第Ⅰ章. はじめに	
1. 調査に至る経緯 .....	1
2. 調査体制 .....	1
第Ⅱ章. 位置と環境	
1. 地理的環境 .....	3
2. 歴史的環境 .....	3
第Ⅲ章. 第1次調査	
1. 調査概要 .....	7
2. 遺構と遺物 .....	7
3. 小結 .....	12
第Ⅳ章. 第2次調査	
1. 調査概要 .....	13
2. 遺構と遺物 .....	13
3. 小結 .....	15
第Ⅴ章. 第3次調査	
1. 調査概要 .....	16
2. 遺構と遺物 .....	16
3. 小結 .....	18
第Ⅵ章. まとめ .....	19

# 表目次

表1 宝松遺跡調査一覧表 .....	5
表2 第1～3次出土遺物観察表 .....	20
表3 第1～3次遺構総覧表 .....	21

## 図 版 目 次

### 図版 1

- ① 第 1 次調査全景（南東から）      ② 第 1 次調査全景（北東から）

### 図版 2

- ① 第 2 次調査全景（南から）      ② 第 2 次調査北全景（南から）

### 図版 3

- ① 第 3 次調査全景（北から）      ② 第 3 次調査 S D 01 完掘（北から）

### 図版 4

- ① 第 1 次調査 S D 03 全景（南から）    ② 第 2 次調査 S D 01 土層断面（南から）

- ② 第 3 次調査西壁土層断面（東から）

### 図版 5 出土遺物①

### 図版 6 出土遺物②

## 挿 図 目 次

第 1 図	宝松遺跡第 1 ～ 3 次調査地点位置図（1/2, 500）	5
第 2 図	周辺遺跡分布図（1/25, 000）	6
第 3 図	第 1 次調査遺構略測図（1/200）	7
第 4 図	第 1 次調査遺構配置図（1/80）	8
第 5 図	第 1 次調査 S D 01 土層断面図（1/20）	9
第 6 図	第 1 次調査 S D 02 土層断面図（1/20）	9
第 7 図	第 1 次調査 S D 03 土層断面図（1/20）	9
第 8 図	第 1 次調査出土遺物実測図（1/3）	12
第 9 図	第 2 次調査遺構略測図（1/200）	13
第 10 図	第 2 次調査遺構配置図（1/100）	14
第 11 図	第 2 次調査出土遺物実測図（1/3）	15
第 12 図	第 3 次調査遺構略測図（1/100）	16
第 13 図	第 3 次調査遺配置図及び土層断面図（1/40）	17
第 14 図	第 3 次調査出土遺物実測図（1/3）	18

# 第Ⅰ章. はじめに

## 1. 調査に至る経緯

大野城市では、昭和54年度（1979）から本格的に埋蔵文化財調査を実施しているところですが、報告書刊行が遅滞している場合が少なくありません。主な理由として、1回の調査面積が狭いことから周辺の発掘調査の回数を重ねた段階で報告を考えていたもの、その他の遺跡の発掘調査を優先しなければならないことから整理調査が遅れたもの、予算の不足等があります。今回報告するものもそのような遺跡の調査で、発掘調査時よりもだいぶ時間が経ってしまいましたが、小規模な調査でもあり、同時に報告するものである。いずれも周知の埋蔵文化財包蔵地『宝松遺跡』に該当します。

今回報告する1次調査は、平成15年度に大野城市山田4丁目479—4、2次調査は、平成18年度に大野城市山田4丁目394—7とともに、共同住宅建設の計画がなされ、その後、試掘調査を実施した。試掘調査の結果、遺構が確認されたことから、計画通り開発が実施されると遺跡が破壊されるため協議を行った。事業者との協議の結果、遺構保護は設計上困難であることから、当初計画通り共同住宅建設が行われることとなり、遺跡が破壊される部分の発掘調査が必要と判断された。1次調査の調査期間は、平成15年5月7日～平成18年6月9日まで実施し、調査面積は約164㎡を調査対象とした。2次調査の調査期間は、平成18年8月8日～平成18年9月15日まで実施し、調査面積は約150㎡を調査対象とした。3次調査は、平成29年度に大野城市筒井1丁目462—7で個人住宅建設の計画がなされ、その後、試掘調査を実施した。試掘調査の結果、遺構が確認されたことから、計画通り開発が実施されると遺跡が破壊されるため協議を行った。事業者との協議の結果、遺構保護は設計上困難であることから、当初計画通り個人住宅建設が行われることとなり、遺跡が破壊される部分の発掘調査が必要と判断された。調査期間は平成29年11月1日～平成29年11月10日まで実施し、調査面積は約40㎡を調査対象とした。

## 2. 調査体制

発掘調査は前述のように平成15年度・平成18年度・平成29年度に行ったが、報告書作成は平成30年度に実施した。報告書刊行時の平成30年大野城市教育委員会の体制は以下のとおりである。

平成30度

教育長	吉富 修
教育部長	平田 哲也
ふるさと文化財課長	石木 秀啓
係長	徳本 洋一 林 潤也 佐藤 智郁
主任技師	上田 龍児
技師	山元 瞭平

主事（任期付） 坂井 貴志（平成30年8月まで） 鮫島 由佳  
柴田 剛（整理担当）

嘱託（調査） 澤田 康夫 三浦 萌（平成30年4月～9月まで）

嘱託（啓発） 山村 智子 浅井 毬菜（平成30年5月～）

嘱託（庶務） 呉羽 京子 西村 友美

発掘参加者

地元有志

整理作業参加者

松岡 信子 町井 裕子 村山 律子 白井 典子 仲村 美幸 松本 友里江 津田 りえ  
吉田 薫 小嶋 のり子

## 第Ⅱ章. 位置と環境

### 1. 地理的環境

大野城市が位置する福岡平野は、東南部に位置する。市域は南北に細長く、中央部が挟まった瓢箪形の市域をなす。北部から中央部には筑後川から分かれた御笠川が南東から北西に流れて博多湾へと注ぐ。この御笠川流域には平野部が形成され、多くの遺跡の所在が確認されている。

東部には特別史跡「大野城跡」が立地する四王寺山、南部の牛頸山周辺には多くの須恵器窯跡の所在が確認されて、団地造成等の開発により多くの発掘調査も実施され、現在では九州最大の牛頸窯跡群として周知されている。

宝松遺跡の包蔵地範囲は現在の大野城市山田4丁目～筒井1丁目付近に所在し、御笠川西岸の標高約16m前後の沖積平野上に立地する。

### 2. 歴史的環境

宝松遺跡は、これまで3ヶ所の発掘調査が実施され、その結果、古墳～近現代までの複合遺跡であることが明らかになっている。

以下、主要な周辺遺跡を時代ごとに概観する。

#### 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、大城山から東に派生するなだらかな丘陵上の乙金山山麓に位置する釜蓋原遺跡からナイフ形石器・細石刃などが出土している。

#### 縄文時代

縄文時代では、石勺遺跡（F地点・G地点・K地点）が該当する。早期（稻荷山式・早水台式・ヤトコロ式）や後期～晩期（太郎迫式・広田式・三万田式）の出土遺物や遺構では落とし穴状遺構が確認されている。

#### 弥生時代

弥生時代になると市域北部の丘陵部と御笠川周辺の平野部を中心に遺跡が展開する。まず、弥生時代前期の集落では、方形や袋状堅穴が川原遺跡から確認されている。前期の墓地は、土坑墓や甕棺墓が検出された御陵前ノ椽遺跡が該当する。

中期初頭～後期前半の集落跡である仲島遺跡から堅穴住居跡・掘立柱建物・土坑・溝等が検出された。注目すべき資料として、出土遺物の中から中国「新」代の貨布が挙げられる。その他、青銅製鋤先、銅矛鑄型片・鏡片・銅鏃などの多くの青銅製品が出土している。このような出土遺物を含め拠点集落と考えられている。また、森園遺跡から堅穴住居跡・祭祀溝、墓域から甕棺墓・石棺墓・木棺墓・土坑墓が確認されている。銅矛とみられる鑄型の出土も注目すべき資料である。

## 古墳時代

古墳時代になると、政治的記念物である前方後円墳の造営が開始される。市内では、前方後円墳の造営は未だ確認されていないが、御陵古墳群から出土したといわれる三角縁神獣鏡が有力な在地勢力の存在を窺わせる。

5世紀前半代になると三角板革綴短甲・三角板革綴衝角付冑・壺型埴輪等が出土した笹原古墳が大城山からのびる小丘陵上に築かれる。また、6世紀後半～月隈丘陵から乙金山、四王寺山にかけての丘陵上に小規模な円墳を主体とした群集墳が、丘陵上地を中心に爆発的に増加する。乙金北古墳群・持田ヶ浦古墳群・善一田古墳群などが該当する。集落遺跡では、中・寺尾遺跡から竪穴住居跡、瑞穂遺跡では掘立柱建物・井戸・土坑など検出されている。生産遺跡では、乙金地区において6世紀後半～7世紀初頭を中心に乙金窯跡、雉子ヶ尾窯跡などが操業する。

## 古代

奈良時代になると、白村江の戦いで大敗した天智天皇は、博多湾からの侵攻に備え内陸部に防御ラインとして外濠と土塁からなる水城を築いている。『日本書紀』天智3年（664）の一節に「大堤を築きて水を貯へしむ。名づけて水城という」という記事が物語る。また、大野城市の地名の起源となった「大野城」も同様に『日本書紀』天智4年（665）に築かれており、最古の朝鮮式山城として有事の際の籠城として戦う構造となっている。このような白村江の敗戦以後の国際的な緊張感の高まり背景が大宰府の地を護るよう配置された、水城や大野城などの防衛施設が構築された要因である。

律令国家の成立とともに大宰府から水城の東門・西門を通過して官道が整備された。市内調査においては西門ルートが谷川遺跡・池田遺跡では、官道およびその側溝とみられる遺構が確認されている。東門ルートについては、隣接する福岡市の所在する井相田C遺跡や那珂久平遺跡などで道路状遺構が確認されている。市内においては、御笠の森遺跡を横断するように想定されている。石勺遺跡J地点では、奈良時代の火葬墓などが検出されている。

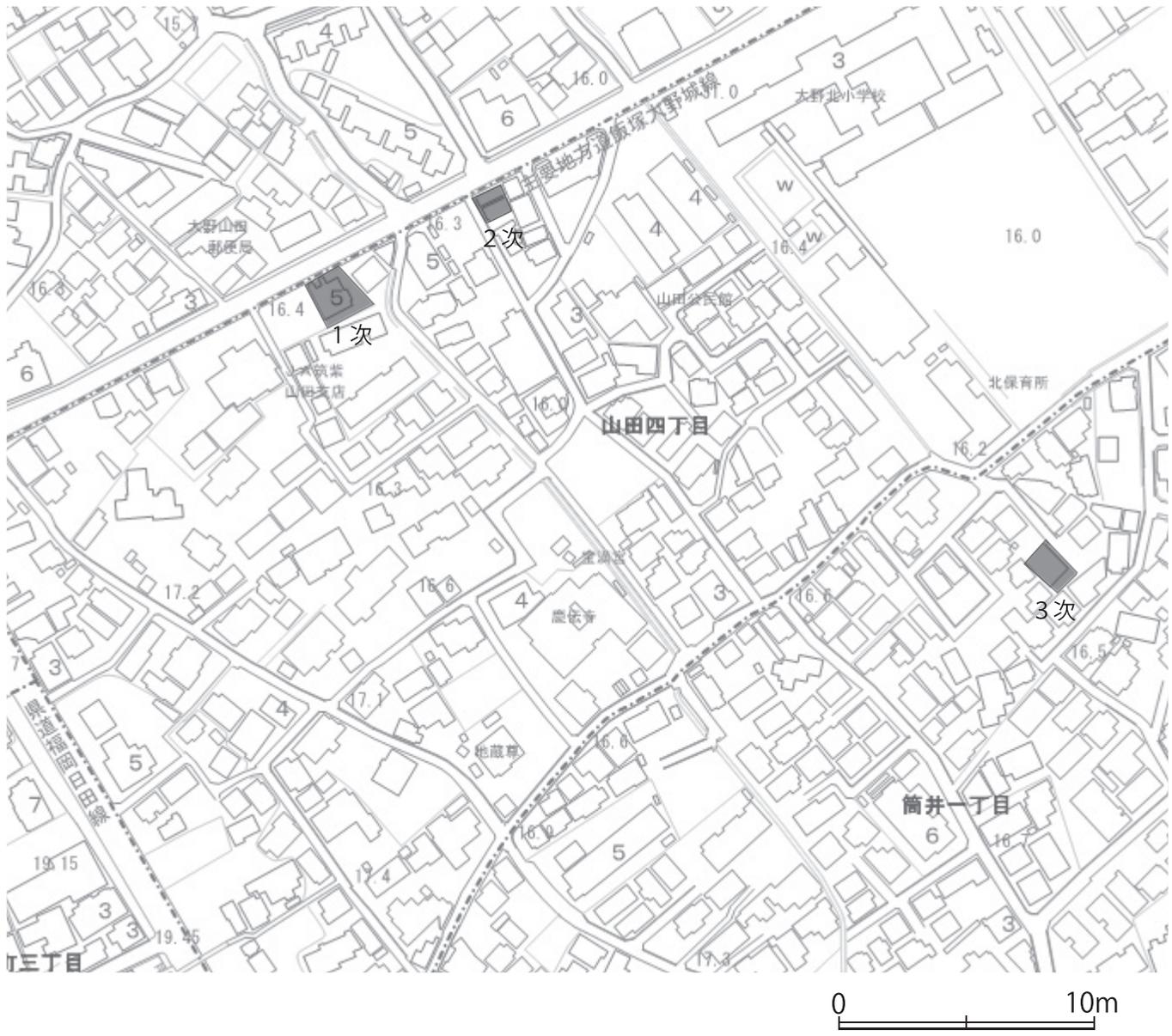
## 中世・近世

鎌倉時代～戦国時代の遺跡として、御笠の森遺跡が該当する。近世初頭には、方形区画を有する溝が展開し、17世紀代には埋没、集落は終焉を迎えている。この遺跡は、『筑前国続風土記拾遺』に記載されている「山田村」に比定されている。

近世になると、近世白木原村の一集落「本村」に比定されている、後原遺跡が注目される。調査結果から近世村落の景観を復元する上で興味深い成果を得ている。市内には多くの遺跡が眠っており、今後の調査によってさらなる類例の増加が見込まれる。今回報告する宝松遺跡が所在する山田・筒井地区は、住宅街と変化している。

## 【参考文献】

『大野城市史 上巻』大野城市史編さん委員会 2005



第1図 宝松遺跡第1～3次調査地点位置図 (1/2,500)

表 1 宝松遺跡調査一覧表

調査回数	調査年月	担当者
1	平成15年5月～6月	林
2	平成18年8月～9月	徳本
3	平成29年11月～11月	柴田



- |                |                 |             |             |                  |
|----------------|-----------------|-------------|-------------|------------------|
| 1. 金隈遺跡        | 16. 御笠の森遺跡      | 31. 原口遺跡    | 46. 原田遺跡    | 61. 原ノ畑遺跡        |
| 2. 堤ヶ浦古墳群      | 17. ヒケシマ遺跡      | 32. 此岡古墳群   | 47. 金山遺跡    | 62. 成屋形古墳        |
| 3. 持田ヶ浦古墳群 E 群 | 18. 中・寺尾遺跡      | 33. 京塚遺跡    | 48. 金山古墳    | 63. 成屋形遺跡        |
| 4. 持田ヶ浦古墳群 B 群 | 19. 森園遺跡        | 34. 錦町遺跡    | 49. 金ヶ浦遺跡   | 64. 裏ノ田窯跡        |
| 5. 持田ヶ浦古墳群 D 群 | 20. 松葉園遺跡       | 35. 榎町遺跡    | 50. 釜蓋原古墳群  | 65. 裏ノ田遺跡        |
| 6. 持田ヶ浦古墳群 F 群 | 21. 善一田古墳群      | 36. ウド遺跡    | 51. 深町古墳    | 66. 裏ノ田古墳        |
| 7. 御陵脇遺跡       | 22. 王城山古墳群      | 37. ウド古墳    | 52. 笹原古墳    | 67. 春日公園内遺跡      |
| 8. 塚口遺跡        | 23. 乙金北古墳群      | 38. 银山遺跡    | 53. 曲り目遺跡   | 68. 後原遺跡         |
| 9. 御陵古墳群       | 24. 御手洗遺跡       | 39. 雉子ヶ尾遺跡Ⅲ | 54. 釜蓋原遺跡   | 69. 前野原遺跡        |
| 10. 御陵前ノ椽遺跡    | 25. 花園遺跡        | 40. 雉子ヶ尾古墳群 | 55. 駿河 A 遺跡 | 70. 九大筑紫キャンパス遺跡群 |
| 11. 唐山遺跡       | 26. 古野遺跡        | 41. 雉子ヶ尾遺跡Ⅱ | 56. 駿河 E 遺跡 | 71. ハザコ遺跡        |
| 12. 仲島遺跡       | 27. <b>宝松遺跡</b> | 42. 雉子ヶ尾遺跡  | 57. 駿河 B 遺跡 | 72. 陣の尾遺跡        |
| 13. 井相田 C 遺跡群  | 28. 雑餉隈遺跡       | 43. 駿河 D 遺跡 | 58. 原ノ口遺跡   |                  |
| 14. 川原遺跡       | 29. 村下遺跡        | 44. 駿河 C 地点 | 59. 瑞穂遺跡    |                  |
| 15. 井相田 B 遺跡群  | 30. 薬師の森遺跡      | 45. 石勺遺跡    | 60. 国分田遺跡   |                  |

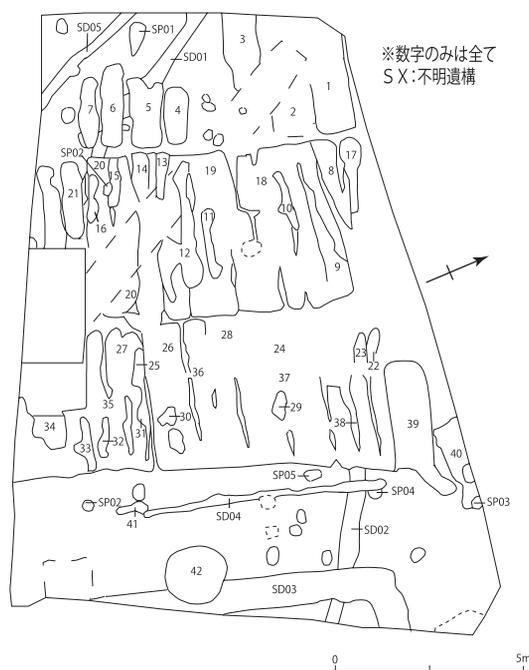
第2図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

## 第Ⅲ章. 一第 1 次調査一

### 1. 調査概要

当遺跡は大野城市山田 4 丁目 479-4 に所在する。標高 16.0m 前後の御笠川西岸の沖積微高地に立地している。調査地は宅地にあたり、共同住宅建設等に伴う発掘調査で、調査面積は約 164m<sup>2</sup> である。本調査は林が担当し、平成 15 年 5 月 7 日～平成 15 年 6 月 9 日まで実施した。

本調査で検出した遺構は溝 5 条、不明土坑 42 基、ピット多数を確認した。遺物は土師器・須恵器・瓦質土器・陶器などが出土した。



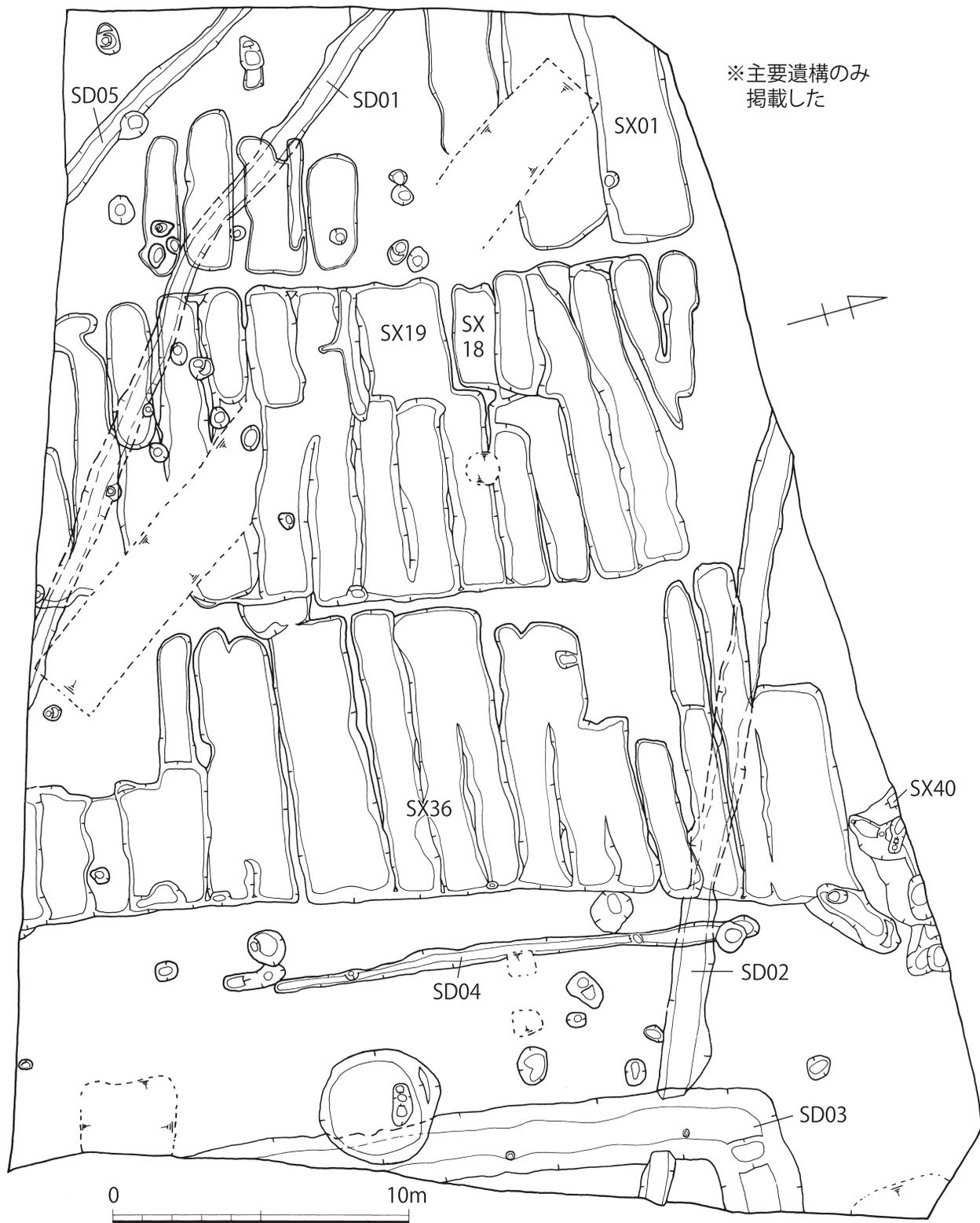
第3図 第1次調査遺構略測図 (1/200)

### 2. 遺構と遺物

#### (1) 遺跡

##### SD01 (第 3～5 図 図版 1)

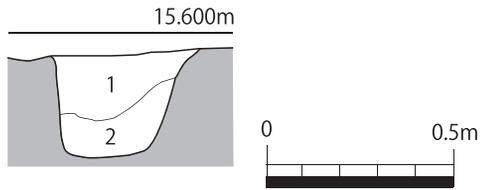
調査区の北西を位置し、北西から南東にかけて直線的に延びる溝で、土坑群に先行する。検出長約 9.95m、幅約 0.31～0.45m、深さ 0.29～0.45m を測る。溝は、黒色～褐色系の埋土で覆われ、



第4図 第1次調査遺構配置図 (1/80)

断面形状は箱形状を呈している。

出土遺物は、土師器である。小片のため図化できなかった。



**SD01土層**

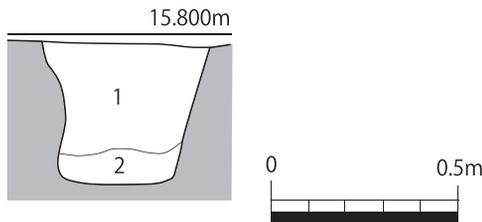
1. 黒色土10YR1.7/1 (より黒味が強い色、粘質、しりがない)  
(1～2cm大の黄褐色ブロック2.5YR5/4を少量含む)
2. 灰黄褐色土10YR4/2 (粘質、しりがない)

第5図 第1次調査SD01土層断面図 (1/20)

**SD02 (第3・4・6図 図版1)**

調査区の北東に位置し、東西にかけて直線的に延びる溝で、土坑群およびSD03、SD04に切られる。検出長約18.0m 幅約0.80～1.20m、深さ0.15～0.52mを測る。溝は、黒色～褐色系の埋土で覆われ、断面形状は箱形状を呈している。

出土遺物は、土師器である。小片のため図化できなかった。



**SD02土層**

1. 黒色土10YR1.7/1 (より灰色味が強い 粘質 ややしりがない)  
(1～2cm大の砂粒を少量含む)
2. 褐灰色土10YR4/1～黒褐色土10YR3/1 (粘質、締まりがない)

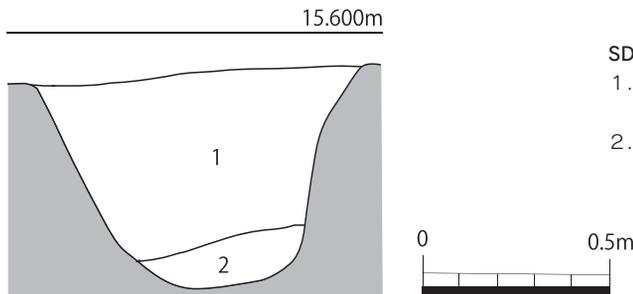
第6図 第1次調査SD02土層断面図 (1/20)

**SD03 (第3・4・7図 図版1・4)**

調査区の東に位置し、逆L字状に延びる溝である。検出長約8.80m 幅約0.95～1.04m、深さ0.50～0.68mを測る。溝は、黒色系の埋土で覆われ、断面形状はなだらかな逆台形状を呈している。

出土遺物は、土師器・瓦質土器・陶器・磁器(染付)などである。

出土遺物 (第8図 図版5)



**SD03土層**

1. 黒色土7.5YR2/1 (粘質、やや硬くしめる)  
(灰黄褐色土10YR4/2が少量混じる)
2. 黒色土10YR2/1 (より黒味が強い、粘質、締まりがなく軟質)  
(灰黄褐色土ブロック1～5cm大)  
(明黄褐色土ブロック10YR7/6を多量に含む)

第7図 第1次調査SD03土層断面図 (1/20)

## 土師器

小皿（１）埋土から出土した口縁部から底部にかけての資料である。内外面は回転ナデ調整、底部は糸切りである。

小皿（２）埋土から出土した口縁部から底部にかけての資料である。内外面は磨滅のため調整不明である。底部は糸切りと思われる。

## 瓦質土器

播鉢（３）埋土から出土した胴部の資料である。内外面とも磨滅がしているが、４本単位の播目が確認出来る。

火鉢（４）埋土から出土した胴部の資料である。内面には刷毛目、指オサエ、外面には１条の突帯が張り付く。

## 陶器

碗（５）埋土から出土した底部から体部にかけての資料である。内面～外面体部にかけて、灰色釉が施され高台付近は露胎となる。見込みに胎土目が４ヶ所残る。

### SD04（第３・４図 図版１）

調査区の東に位置し、南北に直線状に延びる溝であり、SD03と概ね並行する。検出長約6.15m 幅約0.18～0.30m、深さ0.03～0.09mを測る。溝は、黒色～褐色系の埋土で覆われる。

出土遺物は、土師器・磁器（染付）などである。小片のため図化できなかった。

### SD05（第３・４図 図版１）

調査区の西に位置し、北西から南東に直線状に延びる溝である。検出長約3.50m 幅約0.25～0.36m、深さ0.08～0.13mを測る。溝は、黒色～褐色系の埋土で覆われる。

出土遺物は、皆無である。

## （２）不明遺構

SX01～SX39に関しては、人為的な掘り込みが認められる状況である。詳細は後述する。そのため、時期把握できる遺物を抽出し、報告する。また、その他の遺構から土地利用が推測される資料も報告する。

### SX01（第３・４図 図版１）

出土遺物（第８図）

## 瓦質土器

脚部（６）埋土から出土した火鉢脚部の資料と思われる。外面はナデ調整である。

### SX18（第３・４図 図版１）

出土遺物（第８図）

## 土師質土器

さな（７）埋土から出土した七輪に使用され、灰をうける皿部の破片である。おそらく、隅丸方形型をしている。穿孔部の直径は2cm前後を測るとと思われる。

### **瓦質土器**

火鉢（8）埋土から出土した火鉢の胴部の資料である。内面は調整不明。外面は菊花文の印刻が施される。

### **磁器**

紅皿（9）埋土から出土した紅皿の資料である。釉薬は白磁で、外面は貝の型押し成形である。また体部下半は露胎が確認できる。

小碗（10）埋土から出土した小碗の資料である。口縁部内面に3条の圏線、外面には格子文と草花文を描く。

**S X 19**（第3・4図 図版1）

**出土遺物**（第8図）

### **磁器**

皿（11）埋土から出土した小皿の資料である。内面は見込みに2条の圏線、花文を描く。高台と底部の境に1条の圏線を巡らせる。

**S X 36**（第3・4図 図版1）

**出土遺物**（第8図）

### **磁器**

小碗（12）埋土から出土した小碗の資料である。外面には草文らしきモチーフを描く。

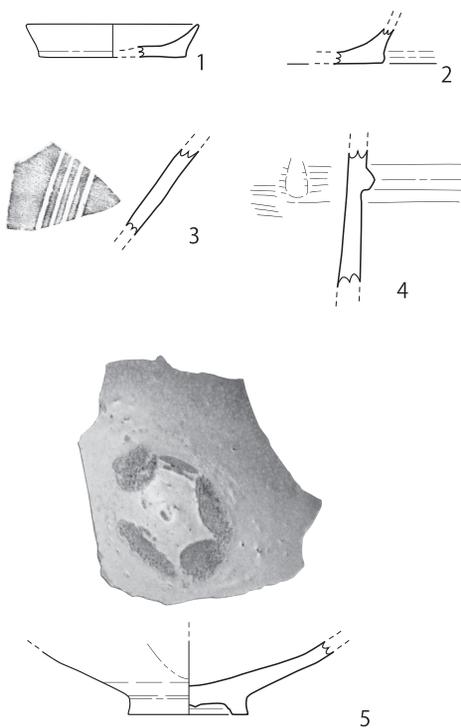
**S X 40**（第3・4図 図版1）

**出土遺物**（第8図）

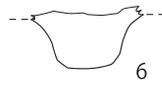
### **須恵器**

蓋（13）埋土から出土した蓋の資料である。口縁端部は三角を呈するもので、内外面は磨滅が著しいため調整不明である。

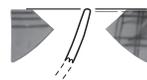
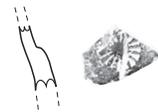
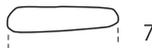
埋土



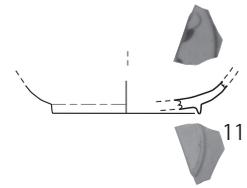
SX01



SX18



SX19



SX36



SX40



第8図 第1次調査出土遺物実測図 (1/3)

(3) 小結

今回報告した不明遺構 (S X01 ~ S X39) については、概ね長さ4.0m×幅0.6m×深さ0.1m程度の長方形プランを呈している。特徴は、並行して3列検出されている。また、埋土上面には黒色土が堆積し、遺物は近現代が中心である (表3参照)。このような形状の遺構として、畠状遺構が考えられる。その時期については、出土遺物から判断すると、江戸時代から長期にわたって機能され、その下限は近代まで及ぶものと考えられる。

次に、時期が明確な遺構としては、S D03が挙げられる。このS D03からは、胎土目の肥前系陶器皿が出土している。時期は、17世紀前半に位置付けられ、これに並行するS D04も近い時期の可能性はある。

またS D03がL字形に屈曲し、区画溝と想定できる点については、埋没時期の共通性と合わせて、隣接する「御笠の森遺跡」との関連が注目される。

S D03に先行する遺構として、重複関係からS D02が挙げられる。これに概ね並行するS D01・S D05も同時期の可能性はある。

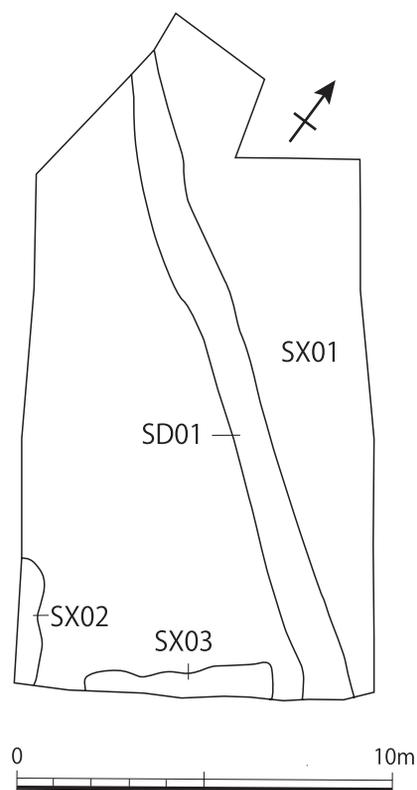
出土遺物から時期を判断することはできないが、今後周辺調査の成果と合わせて検討する必要がある。最も新しい遺構は、不明遺構としてS X01 ~ S X39が該当する。

## 第Ⅳ章. 一第2次調査一

### 1. 調査概要

当遺跡は大野城市山田4丁目394-7に所在する。標高16.0m前後の御笠川西岸の沖積微高地に立地している。調査地は宅地にあたり、共同住宅建設等に伴う発掘調査で、調査面積は約150㎡である。本調査は徳本が担当し、平成18年8月8日～平成18年9月15日まで実施した。

本調査で検出した遺構は溝1条、自然流路（落ち込み）1条、不明遺構2基を確認した。遺物は土師器・須恵器・陶磁器などが出土した。

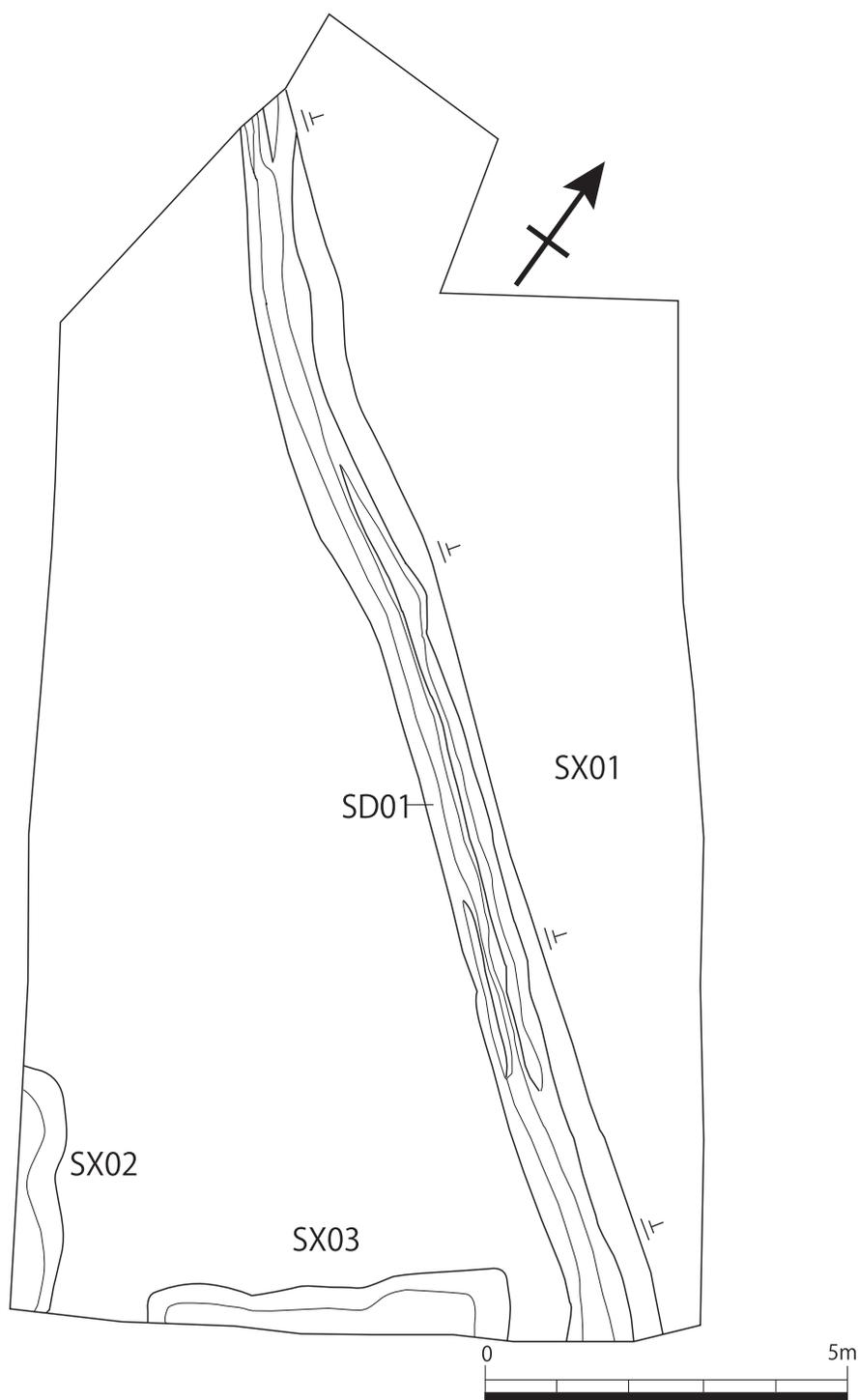


第9図 第2次調査遺構略測図（1/200）

### 2. 遺構と遺物

#### （1）溝跡

SD01（第9・10図 図版2・4）



第10図 第2次調査遺構配置図 (1/100)

調査区の中央に位置し、北西から南東にかけて直線的に延びる溝である。検出長約18.0m 幅約0.80～1.20m、深さ0.15～0.52mを測る。溝は、黒色の埋土で覆われ、断面形状は箱形状を呈している。

出土遺物は、土師器・須恵器・陶磁器・瓦などである。

## 出土遺物（第11図 図版5）

### 土師器

杯（14）埋土から出土した底部から胴部にかけての資料である。内外面は回転ナデ調整、底部は糸切りである。

小皿（15）埋土から出土した底部から口縁部にかけての資料である。内外面は回転ナデ調整、底部は糸切りである。

小皿（16）埋土から出土した底部から口縁部にかけての資料である。内外面は回転ナデ調整、底部は糸切りである。

### SX01（第9・10図 図版2）

調査区の中央から東に位置し、SD01に切られる自然流路と考えられる。出土遺物は、土師器・須恵器である。

## 出土遺物（第11図 図版6）

### 須恵器

杯（17）埋土から出土した底部から胴部にかけての資料である。外面は回転ナデ調整、内面は回転ナデ後、不定方向のナデ調整である。

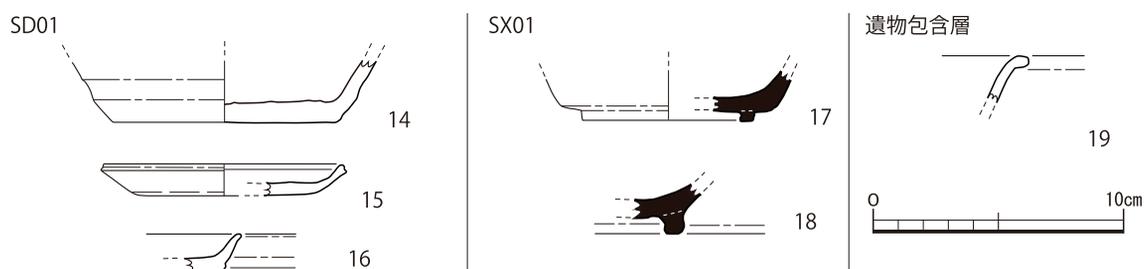
杯（18）埋土から出土した底部から胴部にかけての資料である。内外面は回転ナデ調整である。

## （2）遺物包含層

## 出土遺物（第11図 図版6）

### 陶磁器

杯（19）包含層から出土した口縁部の資料である。口縁部は短く屈曲する。釉は青緑色の光沢がある。杯Ⅲ—1 a。



第11図 第2次調査出土遺物実測図（1/3）

## 3. 小結

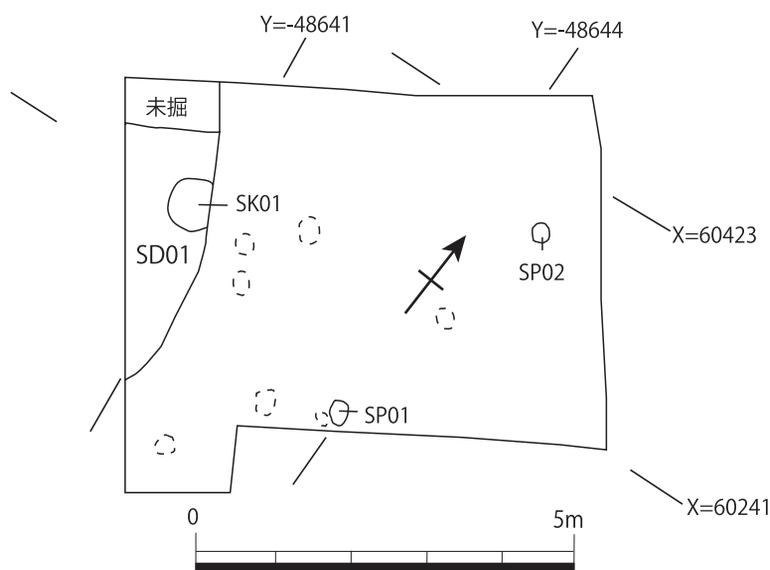
遺構密度などは薄く、集落域の縁辺部にあたると考えられる。SD01の出土遺物は僅かであったが、中世の範疇に該当する。今後、中世「宝松遺跡」を語る上で重要な手がかりになるろう。

## 第V章. 一第3次調査一

### 1. 調査概要

当遺跡は大野城市筒井1丁目462-7に所在する。標高16.0m前後の御笠川西岸の沖積微高地に立地している。調査地は宅地にあたり、個人住宅建設等に伴う発掘調査で、調査面積は約40㎡である。本調査は柴田が担当し、平成29年11月1日～平成29年11月10日まで実施した。

本調査で検出した遺構は溝1条、土坑1基、ピット2基を確認した。遺物は弥生土器・土師器などが出土した。



第12図 第3次調査遺構略測図 (1/100)

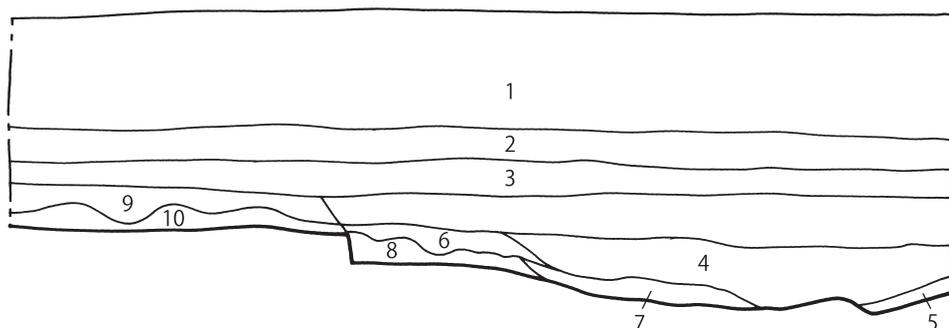
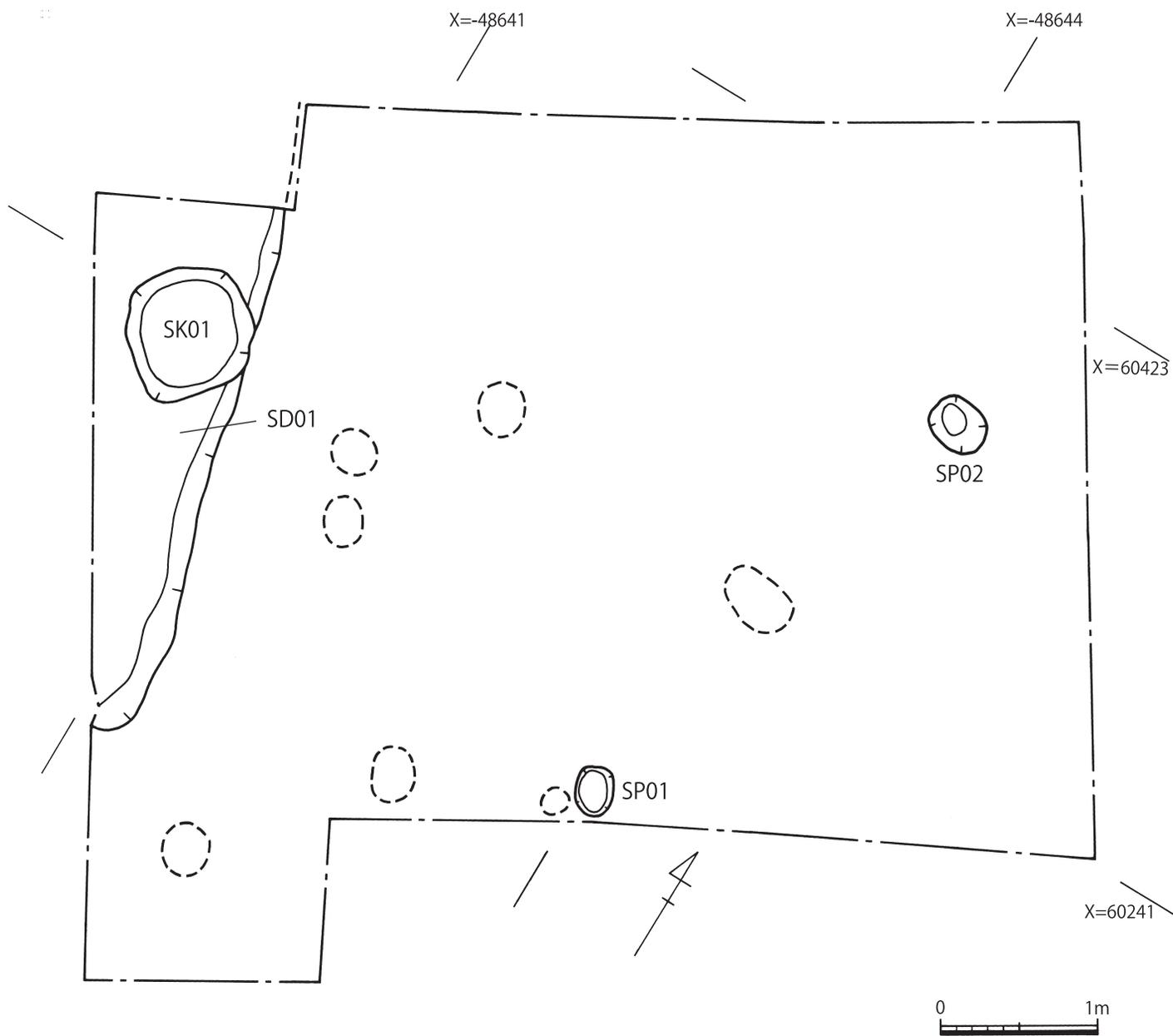
### 2. 遺構と遺物

#### (1) 溝跡

##### SD01 (第12・13図 図版3)

調査区の西隅に位置し、SK01に切られる。調査区の関係上、完掘できていないが、検出長約3.40m 幅約1.20m、深さ0.17～0.40mを測る。溝は、黒褐色～暗褐色系の埋土で覆われ、断面形状はなだらかな逆台形状を呈している。溝底面は、若干の凹凸は認められ、北側に向かうにつれて深くなる。

出土遺物は、弥生土器である。



調査区西壁土層

1. 盛土
2. 10GY5/1緑灰色土
3. 5Y6/3オリーブ黄色土
4. 7.5YR3/1黒褐色土 (炭化物・土器片を少量含む)
5. 7.5YR2/2黒褐色土 (炭化物・土器片を少量含む)
6. 7.5YR3/2黒色土 (焼土微量含む)
7. 7.5YR4/1褐灰色土 (ロームブロック微量含む)
8. 7.5YR3/3暗褐色土
9. 7.5YR2/1黒色土
10. 7.5YR3/3暗褐色土

第13図 第3次調査遺構配置図及び土層断面図 (1/40)

## 出土遺物（第14図 図版6）

### 弥生土器

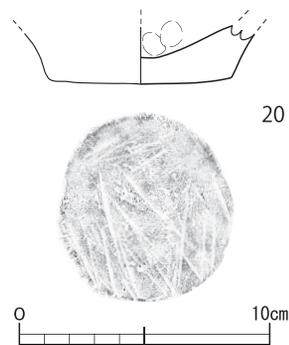
壺（20）埋土から出土した底部の破片である。外面はナデ調整、内面は指頭痕が残る。底部には木の葉文が確認できる。また、一部煤が付着する。

### （2）土坑跡

#### SK01（第12・13図 図版3）

調査区の西隅に位置し、SD01を切っている。規模は、0.83×0.81mの円形状を呈し、深さ検出面から0.61mを測る。

出土遺物は、皆無である。



第14図 第3次調査出土遺物実測図（1/3）

### 3. 小結

今回の調査は、宝松遺跡の包蔵地であった。これまでの調査結果から中世以降の遺構や遺物の出土が予想された。しかし、今回の調査では、弥生時代の遺物が中心であった。出土した遺物や埋土などを考慮すると、弥生時代を中心に古墳時代、中世、近世の遺構・遺物を包蔵する「村下遺跡」の集落に類似する。

当該地周辺での試掘調査結果でも、建物跡や土坑跡、溝跡など弥生時代～古墳時代にかけての集落跡を確認しているが、本調査に至っていないため詳細は不明である。

いずれにしろ、この山田地区は既に宅地化が進んでおり、狭小な面積の調査を繰り返す地道な調査が必要であり、調査事例の増加を待って詳細な検討が必要である。

#### 【参考文献】

『村下遺跡Ⅰ』—A地点・B地点の調査— 大野城市文化財調査報告書第88集 大野城市教育委員会2009

『村下遺跡Ⅱ』—C地点の調査— 大野城市文化財調査報告書第91集 大野城市教育委員会2010

『村下遺跡Ⅲ』—K地点調査— 大野城市文化財調査報告書第141集 大野城市教育委員会2016

『村下遺跡Ⅳ』—L地点の調査—大野城市文化財調査報告書第165集 大野城市教育委員会2018

『村下遺跡Ⅴ』—M地点の調査—大野城市文化財調査報告書第161集 大野城市教育委員会2018

## 第Ⅵ章. まとめ

第1次調査で確認されたSD03、第2次調査で確認されたSD01に関しては、それぞれ「区画溝」であったと想定している。その根拠として、両調査地点は、中世から江戸時代にかけての『山田村』の一部にあたる。山田村の集落は、江戸時代の古文書（「筑前国続風土記」）によると1670年代に、現在の「御笠の森」周辺に移転したことが記されて、近年の調査結果によって、御笠の森周辺でそれを裏付ける大規模な遺跡が確認されている（註1）。

仮に、第1次調査地点が移転する前の集落の一部にあたるとすると、より広大な集落であったことになる。つまり、集落の移動が想定される。

また、第2次調査地点が『山田村』集落の東側の溝であったと仮定すれば、集落を区切る（土地を区画する）区画溝になる。そのように考えると、移動後の『山田村』である可能性が高いと想定される。

上記について、検討が十分に行えなかったのは、筆者の力量不足のため、拙いまとめになってしまった。第1次調査、第2次調査の歴史的な位置付け、評価は今後の課題としたい。

最後に発掘調査終了後、長い年月が経過する中で漸く報告書刊行に至った。調査成果は、その解明に一歩近づく資料を提供するものであり、また調査精度の向上も必要である。

### 【註】

註1 『御笠の森遺跡』－8次調査－未報告

### 【参考文献】

- 『御笠の森遺跡Ⅰ』－第9次調査（1）－大野城市文化財調査報告書第63集 大野城市教育委員会2004  
『御笠の森遺跡Ⅱ』－第9次調査（2）－大野城市文化財調査報告書第65集 大野城市教育委員会2005  
『御笠の森遺跡Ⅲ』－第10次調査－大野城市文化財調査報告書第79集 大野城市教育委員会2004  
『御笠の森遺跡Ⅳ』－第3次・5次・6次調査－大野城市文化財調査報告書第103集 大野城市教育委員会2012  
『御笠の森遺跡Ⅴ』～第14次調査～大野城市文化財調査報告書第125集 大野城市教育委員会2015  
『御笠の森遺跡Ⅵ』～第11・12・13・15・16・17次調査～大野城市文化財調査報告書第134集 大野城市教育委員会2016

表2 第1～3次出土遺物観察表

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径 ※( )は復元 ( )は残存値	形態、技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
1	土師器	小皿	SD03埋土	①(7.0) ②(1.3) ③(6.7)	回転ナデ調整。外底部は糸切。	A:0.5mm以下の白色粒子・金雲母を微量含む。 B:良好 C:内外共にぶい黄橙10YR7/3	
2	土師器	小皿	SD03埋土	②(1.4)	磨滅のため調整不明。外底部は糸切。	A:0.5mm程の白色砂粒を微量含む。 B:良好 C:内外共にぶい黄橙10YR7/3	
3	瓦質土器	播鉢	SD03埋土	②(3.4)	磨滅のため調整不明。4本の播目が施される。	A:0.5mm以下の白色粒子・金雲母を微量含む。 B:良好 C:内面 褐灰10YR5/1 外面 褐灰10YR4/1	
4	瓦質土器	火鉢	SD03埋土	②(2.5)	内面は刷毛目、指オサエ調整。外面は1条の突帯が巡る。	A:0.5mm程の白色砂粒を微量含む。 B:良好 C:内面 灰白10YR8/1 外面 褐灰10YR4/1	
5	陶器	皿	SD03埋土	②(2.9) ④4.8	内面は施釉。外面は、回転ヘラ削り。削り出し高台。	A:精選されている。 B:良好 C:内面 浅黄2.5Y7/4 外面 橙7.5YR6/6	
6	瓦質土器	脚部	SX01埋土	②(2.9)	外面はナデ調整。	A:0.5mm程度の白色粒子を微量含む。 B:良好 C:内外共にぶい褐7.5YR5/3	
7	土師質土器	さな	SX18埋土	全長3.4 幅4.5 厚さ1.3	一部剥離、被熱が見られる。	A:0.5～1mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好 C:内外共にぶい橙5YR7/4	穿孔あり。
8	瓦質土器	火鉢	SX18埋土	②(3.2)	内面は磨滅のため調整不明。外面には菊花文の印刻が施される。	A:0.5mmの白色砂粒を微量含む。 B:良好 C:内面 褐灰10YR4/1 外面 褐灰10YR5/1	
9	磁器	紅皿	SX18埋土	①(5.0) ②(1.0)	内面は施釉。外面は貝で型押し成形。	A:精選されている。 B:良好 C:内外共 灰白8/	
10	磁器	小碗	SX18埋土	②(2.2)	全面に施釉。口縁部内面に3条の圏線。外面は格子と草花文。	A:精選されている。 B:良好 C:内外共 灰白5GY8/1	
11	磁器	皿	SX19埋土	②(1.3) ③(6.0)	全面に施釉。内面の見込みに2条の圏線、花文。高台内に1条の圏線。	A:精選されている。 B:良好 C:内外共 灰白8/	
12	磁器	小碗	SX36埋土	②(2.5)	全面に施釉。外面に唐草文か。	A:精選されている。 B:良好 C:内外共 灰白2.5Y8/1	
13	須恵器	蓋	SX40埋土	②(1.4)	内外面、磨滅のため調整不明。	A:0.5mmの白色砂粒を微量含む。 B:良好 C:内外共 褐白10YR6/1	
14	土師器	杯	SD01埋土	②(2.5) ③(9.0)	回転ナデ。外底部は糸切。	A:0.5mmの白色砂粒を微量含む。 B:良好 C:内外共にぶい橙7.5Y6/4	
15	土師器	小皿	SD01埋土	②(1.2)	回転ナデ調整。外底部は糸切。	A:0.5mmの白色砂粒を微量含む。 B:良好 C:内外共にぶい橙7.5Y7/3	
16	土師器	小皿	SD01埋土	②(1.5)	回転ナデ調整。外底部は糸切。	A:0.5mmの白色砂粒を微量含む。 B:良好 C:内外共にぶい橙5Y6/4	
17	須恵器	杯	SX01埋土	②(2.2) ③(7.0)	外面は回転ナデ。内面は回転ナデ後、不定方向のナデ。	A:0.5mmの白色砂粒を微量含む。 B:良好 C:内外共 灰白N7/	
18	須恵器	杯	SX01埋土	②(1.9)	内外面、回転ナデ。	A:0.5mmの白色砂粒を微量含む。 B:良好 C:内外共 灰白N5/	
19	陶磁器	青磁	包含層	②(1.9)	全面に施釉。	A:精選されている。 B:良好 C:内外共 灰オリーブ10YR6/2	龍泉系青磁杯 III-I a 類。
20	弥生土器	壺	SD01	②(2.3) ③7.4	外面は横ナデ、内面には指オサエが残る。	A:0.5～2mm程度の白色粒子・金雲母を少量含む。 B:良好 C:内面 にぶい黄橙10YR7/3 外面 灰黄褐10YR5/2	底部に木の葉文様。

表3 第1～3次遺構総覧表

第1次調査 遺構総覧表

遺構番号	遺構	出土遺物	時期	遺構番号	遺構	出土遺物	時期
SD01	溝	土師器	中世以降	SX22	不明遺構	磁器・石炭	近現代以降
SD02	溝	土師器	中世以降	SX23	不明遺構	土師器・石炭	近現代以降
SD03	溝	土師器・瓦質土器・磁器（染付）・陶器	近代以降	SX24	不明遺構	土師器・陶器	近現代
SD04	溝	土師器・磁器（染付）	近世以降	SX25	不明遺構	土師器・火鉢？	近現代
SD05	溝	瓦？	近現代	SX26	不明遺構	土師器・陶器	近現代
SX01	不明遺構	土師器・陶磁器（龍泉）・染付・鉄	中世～ 近現代以降	SX27	不明遺構	土師器・陶器・磁器（染付）	近現代
SX02	不明遺構	土師器	中世以降	SX29	不明遺構	土師器・石炭	近現代以降
SX03	不明遺構	土師器	中世以降	SX30	不明遺構	土師器・陶器・石炭	近現代以降
SX04	不明遺構	土師器・陶器・石炭	近現代以降	SX31	不明遺構	土師器・磁器	近代以降
SX05	不明遺構	—	—	SX32	不明遺構	土師器	中世以降
SX06	不明遺構	土師器・磁器（染付）	近代以降	SX33	不明遺構	土師器・陶器・石炭・鉄	近現代以降
SX07	不明遺構	土師器	中世以降	SX34	不明遺構	磁器（染付）・陶器	近現代
SX08	不明遺構	土師器・石炭	近現代以降	SX35	不明遺構	土師器・磁器（染付）・陶器・石炭	近現代以降
SX09	不明遺構	土師器・陶器・石炭	近現代以降	SX36	不明遺構	土師器・火皿・磁器（染付）・陶器・石炭	近現代以降
SX10	不明遺構	土師器	中世以降	SX37	不明遺構	土師器・火皿・瓦・磁器（染付）・陶器・石炭	近現代以降
SX11	不明遺構	土師器・火皿・陶磁器（染付）	近現代	SX38	不明遺構	土師器・七厘・磁器（染付）・陶器・石炭	近現代以降
SX12	不明遺構	土師器・磁器（染付）	近世以降	SX39	不明遺構	須恵器・土師器・火皿・陶器	近現代以降
SX13	不明遺構	土師器・磁器（染付）	近代以降	SX40	不明遺構	須恵器・土師器	中世以降
SX14	不明遺構	土師器・陶器	近現代	SX41	不明遺構	土師器	中世以降
SX15	不明遺構	土師器	中世以降	SX42	不明遺構	土師器・陶器・磁器（染付）・釘	近現代以降
SX16	不明遺構	土師器	中世以降	SP01	ピット	土師器・陶器	近現代
SX17	不明遺構	—	—	SP02	ピット	陶器・瓦・石炭	近現代以降
SX18	不明遺構	土師器・火皿・瓦質土器・磁器（白磁・染付）・陶器	近現代以	SP03	ピット	土師器	中世以降
SX19	不明遺構	土師器・磁器（染付）・陶器・石炭	近現代以降	SP04	ピット	土師器	中世以降
SX20	不明遺構	土師器・磁器（染付）・陶器・石炭	近現代以降	SP05	ピット	—	—
SX21	不明遺構	陶器	近現代				

第2次調査 遺構総覧表

遺構番号	遺構	出土遺物	時期
SD01	溝	須恵器・土師器・土師器（小皿）・磁器（染付）・瓦	平安～近世
SX01	自然流路	土師器・須恵器	奈良以降
SX02	不明遺構	—	—
SX03	不明遺構	—	—

第3次調査 遺構総覧表

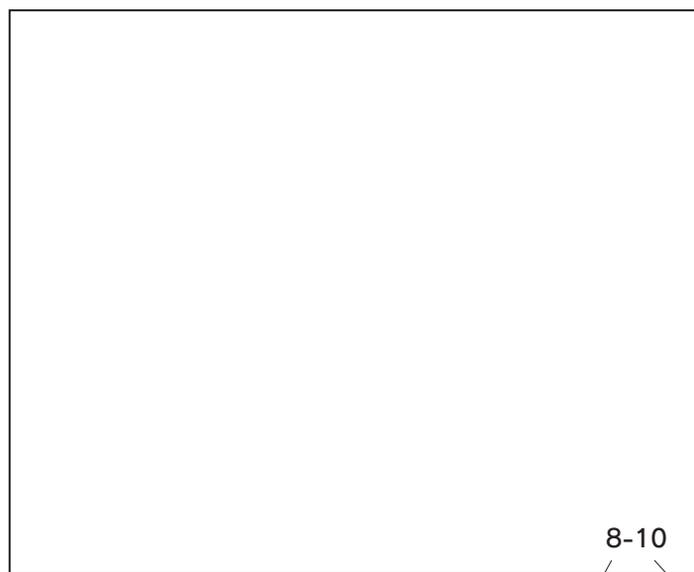
遺構番号	遺構	出土遺物	時期
SD01	溝	弥生土器	弥生
SK01	土坑	—	—
SP01	ピット	弥生土器	弥生
SP02	ピット	—	—



# 写真図版

凡例

遺物写真右下の番号は、以下のとおりである。



8-10

挿図番号 遺物番号





①第1次調査全景（南東から）



②第1次調査全景（北東から）



①第2次調査全景（南から）



②第2次調査北全景（南から）



①第3次調査全景（北から）



②3次調査SD01完掘（北から）

図版4



①第1次調査SD03全景  
(南から)



②第2次調査SD01土層  
断面 (南から)



③第3次調査西壁土層  
断面 (東から)





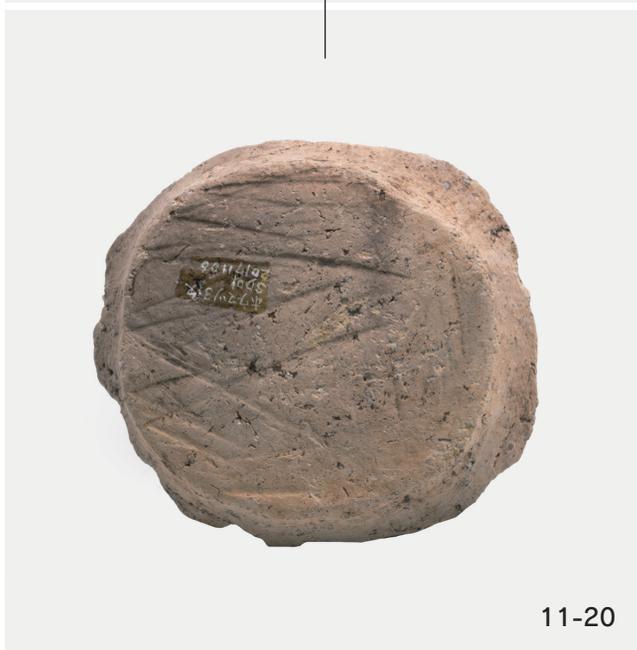
11-17



14-20



11-18



11-20



11-19

# 報告書抄録

ふりがな	ほうまついせきいち
書名	宝松遺跡1
副書名	第1～3次調査
巻次	1
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第173集
編著者名	柴田 剛
編集機関	大野城市教育委員会
所在地	〒816-8510 福岡県大野城市曙町二丁目2番1号 Tel.092-501-2211
発行年月日	平成31年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' / "	東経 ° / ' / "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ほうまついせき 宝松遺跡 いちじちようさ 1次調査	ふくおかけんおおのじょうしやまだ ちょうめ 福岡県大野城市山田4丁目 479-4	402192		33° 32' 40"	130° 28' 23"	2003年 5月7日 ～ 2003年 6月9日	約164㎡	共同住宅

ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ほうまついせき 宝松遺跡 いちじちようさ 1次調査	集落跡	中世～明治	溝・不明遺構・ 小穴	土師器・須恵器・ 瓦質土器・陶器	

要約 宝松遺跡は、御笠川の西岸に広がる標高16mの沖積平野に位置する。不明遺構としている土坑群は、黒色土が溝状に検出され、出土遺物などから近現代の畠状遺構の可能性はある。また、SD03は17世紀前半の区画溝の可能性はある。

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' / "	東経 ° / ' / "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ほうまついせき 宝松遺跡 にじちようさ 2次調査	ふくおかけんおおのじょうしやまだ ちょうめ 福岡県大野城市山田4丁目 394-7	402192		33° 32' 41"	130° 28' 26"	2006年 8月8日 ～ 2006年 9月15日	約150㎡	共同住宅

ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ほうまついせき 宝松遺跡 にじちようさ 2次調査	集落跡	平安～中世	溝・不明遺構・ 自然流路	土師器・須恵器・ 陶磁器	

要約 宝松遺跡は、御笠川の西岸に広がる標高16mの沖積平野に位置する。検出された溝は、集落の東端を区画することが確認された。今回の調査により、土地利用の変遷にかかわる貴重な資料を得ることが出来た。

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ' / "	東経 ° / ' / "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ほうまついせき 宝松遺跡 さんじちようさ 3次調査	ふくおかけんおおのじょうしつつい ちょうめ 福岡県大野城市筒井1丁目 462-7	402192		33° 32' 37"	130° 28' 34"	2017年 11月1日 ～ 2017年 11月10日	約40㎡	個人住宅

ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ほうまついせき 宝松遺跡 さんじちようさ 3次調査	集落跡	弥生	溝・土坑・小穴	弥生土器・ 土師器	

要約 宝松遺跡は、御笠川の西岸に広がる標高16mの沖積平野に位置する。過去2回の調査結果から平安時代から近世、近現代にかけての集落跡が確認されている。今回の調査では、弥生時代の溝1条と小穴等が検出され、集落縁辺の様相が確認された。今後の調査成果を積み重ねによって、詳細な状況が明らかになることが期待される。

# 宝松遺跡 1

—第1～3次調査—

大野城市文化財調査報告書 第173集

平成31年3月29日

発行 大野城市教育委員会

〒816-8510 福岡県大野城市曙町2-2-1

印刷 山口印刷株式会社

〒848-0035 伊万里市二里町大里乙3617-5